

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒1人1台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

5月の中旬以降、情報教育アドバイザーの学校巡回が再開されました。勤務後に各校でのGIGA端末活用についての報告を受けるようになりました。また、各校のHPから「端末の持ち帰り」や「校内研修」の様子を確認させていただいています。GIGAスクール構想の実現に向け、各校において、端末が積極的に活用されていること、大変嬉しく感じております。

今回は、氷室小学校でのGIGA端末の日常的な活用におけた工夫と小規模校ならではの取り組みを以下紹介します。

(1) 端末がいつでも使える環境づくり

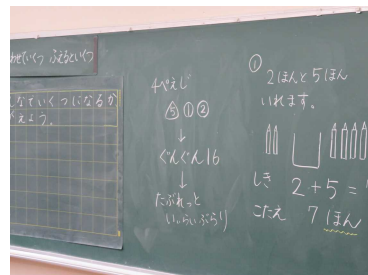


写真は5・6年「理科」の授業です。ロイロノートを利用し、学び合いを意識した授業を行っていただきました。授業の工夫もさることながら、注目したのが児童の左側にある机です。氷室小学校の児童は、登校すると保管庫から端末を取り出し、左側の机の上に用意します。端末を利用するときは、左側の机は、教科書やノートの置き場に早変わりするという仕組みです。すべての教室でこのような環境が整備されていました。情報教育担当でもある担任の先生からは「端末が手元にあることで、GIGA端末はすでに生活の一部となっています。端末活用については、児童から多くのことを学んでいます。」とのことでした。

小規模校であるからの取り組みではありますが、端末がいつでもすぐ利用できる環境は端末の日常的な活用には必要不可欠なものと改めて感じました。

(2) 「わたり」の待ち時間に「e-ライブラリ」

続いて参観させていただいたのが3・4年生の「算数」です。複数の学年を一つの学級で指導する複式学級では教科が同じであっても指導内容が異なることから「わたり」と呼ばれる交互の指導が行われています。指導を待つ間



(すきま時間)に、教科書の問題演習と共に「e-ライブラリ」を利用しているとのことでした。指示は板書され、児童は指示を待つことなく、端末での自習を始めていました。

(3) 継続が『今』につながる

氷室小学校では、どの学級でもGIGA端末が特別なものではなく普段使いされ、日常化が図られていました。

校長先生から「本校では、GIGA端末の導入前から授業で端末を積極的かつ継続的に活用してきました。その積み重ねが『今』であると感じています。GIGA端末は現在、本校の必須アイテムとなっています。今後、昨年度も利用したAIドリルなども活用していく予定です。」とのこといただきました。

氷室小学校の取り組みを今後も注目していきたいと思います。(文責 教育センター所長)